



知っておきたい

松江市名誉市民



名誉市民章

松江市では、市民又は本市において縁故の深い方で、公共の福祉の増進や文化の進展に寄与した方を「松江市名誉市民」とし、その功績を称えています。現在24名の方にこの称号が贈られています。シリーズで1名ずつ紹介していきます。郷土の誇りとして、いつまでも私たちの心に刻んでいきたいですね。

第3回 みや おか 宮岡 とし お 壽雄氏 【1930~2000】

(平成21年11月18日 顕彰)



(松江市勢要覧より)

隠岐郡知夫村で生まれる。昭和21年旧制松江中学（現松江北高）を卒業、福知山専門学校卒業後、神戸市役所に就職する。神戸市役所に勤務の傍ら、神戸経済大学（現神戸大学）を卒業。神戸市助役を経て、平成5年10月から2期6年6ヵ月にわたり松江市長を在任。その間、都市基盤の整備、産業の振興、教育・文化の振興などに貢献した。交通行政においても積極的な転換を図り、南北循環線や観光ループバス「レイクライン」の運行、「ぐるっと松江・堀川めぐり」の愛称で親しまれる堀川遊覧船の就航に尽力した。

ぐるっと松江レイクライン

定期観光バスと路線バスの二つの面を持った周遊バスです。JR松江駅前を起点に、一方通行で松江市内を一周。宍道湖の嫁ヶ島夕日公園や島根県立美術館、松江城など、松江市内のさまざまな観光スポットに停留所があり、20分～30分に1本の間隔で走っています。



島根県内共通バスカード

平成10年、プリペイドカードシステム導入にともない開発されたバスカードです。市営バスの他一畑バス、石見交通、日ノ丸バスで使用できます。小銭の用意が不要となり、バス利用がとても便利になりました。また、豊富なデザインは、観光PRにも一役買っています。



CHIDORI No.102



松江市立図書館報
編集・発行／松江市立中央図書館
〒690-0017 松江市西津田六丁目5-44
☎(0852)27-3220
2018年3月発行
https://www.lib-citymatsue.jp/
E-mail: chuou@lib-citymatsue.jp

特集 松江市営バス



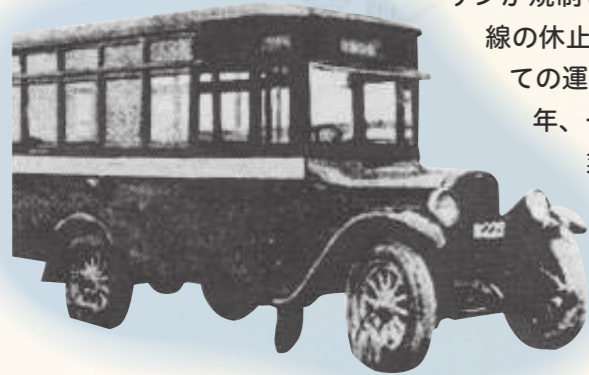
松江市内を走る一般路線バス

内容

- 表紙 松江市内を走る一般路線バス
- 見開き 「松江市営バス」 ～松江の陸上交通のあゆみ～
- 裏表紙 郷土の葉 松江市名誉市民シリーズ「宮岡壽雄氏」
ぐるっと松江レイクライン・島根県内共通バスカード

創業～昭和20年

昭和4年、当時市内で営業していた民営バスを松江市が買収し、16人乗りのバス13台で7路線の営業を開始しました。車体が銀色のため「銀バス」とも呼ばれました。昭和10年には24台で16路線を運行するまでになり、戦前のバス最盛期となりましたが、戦争が始まるとガソリンが規制されたため、あえなく路線の休止や木炭自動車に切り替えての運行となりました。昭和20年、一畑電鉄に売却した後休業となりました。



昭和10年頃の市営バス
(松江市営バスの70年誌より)

木炭バス

車体は小さめで、今のマイクロバス程度でした。薪を入れる釜は炭焼き釜のようなもので、そこで発生する木炭ガスをエンジンで使用しました。



木炭バス
(松江市営バスの70年誌より)

戦後～昭和60年代

昭和21年、一畑電鉄から営業権を買い戻し、木炭バス1台からバス事業を再開しました。その後、車体の色を青色にした「青いバス」としてイメージを定着させたり、戦後初のガソリンエンジンバスに切り替えたり、路線の延長や増便など工夫を凝らしながら発展していきました。昭和28年には貸切バス事業を開始。昭和30年代後半には、市民の交通手段として年間1,000万人以上が利用するなどバスの利用は戦後の最盛期を迎えました。昭和40年代からは、自家用車の普及などにより乗客は減少傾向となり、観光貸切バスにも活路を求めていきました。



昭和25年ごろのボンネットバス
(ガソリンエンジンバス)
(松江市営バスの70年誌より)

松江市営バス

～松江の陸上交通のあゆみ～

藩政時代は、松江～姫路間と松江～尾道間の二つの街道が大阪・京都と結ぶ交通の主要な役割を果たしていました。明治時代になると、道路の改修が進み、人力車、荷車、牛・馬が利用されました。人力車が松江に姿を見せたのは、玄丹お加代の逸話などから明治7年ごろといわれていますが定かではありません。明治後半には、荷馬車・自転車が登場してきました。大正時代になると、民間の乗合自動車が発達し、松江市営バスの開業、一畑電鉄が運行を開始し人力車は姿を消していきました。

今号は、創業90周年の節目を前に、市民の生活手段として親しまれる松江市営バスの歴史を振り返ってみたいと思います。

みなさんは、松江市営バスの歌があるのをご存知ですか。
この歌は、昭和31年、市営バス復活10周年を記念して作られました。

青いバス ～松江市営バスの歌～



1. 青いバスです 光です
あさひかがやく ひかりです
はずむエンジン 朝風きって
走りゃつばめが ついてくる
市営バス ランラ ラララララ
ついてくる

※この歌は5番まであります。

車掌カバンとパンチ (切符切りハサミ)



現在の路線バスは、運転手だけのワンマンバスですが、かつては、「車掌さん」と呼ばれる役目の人が乗っていて、バスの運賃を受け取ったり、ドアの開け閉めをしたり、運転手さんと協力し合いながらバスを運行していました。「毎度ご乗車ありがとうございます」「発車しまーす」と言ってジャバラのドアをガシャンと閉めて出発。「次は〇〇です」「お降りの方はおられますか?」「はい、降ります」。今では懐かしい光景です。

車庫の移り変わり

松江市営バスの車庫・事務所も、何度か移転を繰り返してきました。創業時、東朝日町車庫から始まり、昭和35年には松江第三中学校の旧校庭と用地交換し大正町車庫へ移転しました。昭和46年に川津車庫(西川津町)へ、昭和54年に古志原車庫(山代町)に移り、現在の平成町車庫(平成町)へは平成13年に移転しました。



現在の「平成町車庫」

平成時代

平成7年に観光ループバス「ぐるっと松江レイクライン」が運行を開始しました。当時女性運転手での運行が話題を呼び、再び乗客は増加傾向に戻りました。続いて平成9年には市の花「つばき」を章した南北循環線の運行や福祉シャトルバスの運行も開始しました。平成13年には中国地方初のCNG(圧縮天然ガス)ノンステップバスを導入しました。このように路線の再編、ダイヤの改正を図るなど工夫を凝らしながら今日に至ります。



ハイブリッドバス



観光バス(リフト付)

参考にした主な資料

松江市営バスの70年誌/松江市交通局発行
松江今昔/松江市発行
松江市誌(市制施行100周年記念)/松江市発行

※松江市交通局の方々に
ご協力いただきました。